

令和7年度 主要事業評価シート

① 基本事項	計画コード	22072	事業名	リニア中央新幹線亀山駅整備基金積立事業			評価分類	A1
	事業手法	☒ 直営 ☐ 一部委託 ☐ 全部委託 ☐ 補助等 ☐ その他()						
	施策体系	施策の大綱	03:交通拠点性を生かした都市活力の向上			予算科目	会計	01:一般会計
		基本施策	05:広域的な交通拠点性の強化				款	12:諸支出金
		施策の方向	01:リニア中央新幹線市内停車駅の誘致の推進				項	01:基金費
		重点プロジェクト	-				目	03:リニア中央新幹線駅整備基金費
	事業期間	H 8 年度 ~ R - 年度		主な根拠法令等	-			

担当部署	
部	政策部
課	政策推進課 交通政策G

② 事業概要 (P)	事業の必要性(経緯・背景等)	事業の対象(誰に、何に対して)	事業の目的(どのような状態にしたいのか)	事業の内容(どのような取組を行うのか)
	リニア市内停車駅周辺の整備には、先行開業区間の事例からも多額の費用が必要となる。県期成同盟会における県内駅位置候補市でもある本市は、駅誘致を見据え、駅周辺整備費用の財源確保を計画的に図る必要がある。	市	リニア市内停車駅周辺の整備を展開する際の財源が一定程度確保できている。	リニア市内停車駅周辺の整備に活用できる財源として、計画的にリニア中央新幹線亀山駅整備基金の積み立てを行う。

③事業の実施状況（P・D）

年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度	
事業計画		○リニア中央新幹線亀山駅整備基金の積立		○リニア中央新幹線亀山駅整備基金の積立		○リニア中央新幹線亀山駅整備基金の積立		○リニア中央新幹線亀山駅整備基金の積立	
活動実績 （計画通り実施できたか）		リニア中央新幹線亀山駅整備基金に52,704千円を積み立て、令和4年度末積立残高を約19億円とした。		リニア中央新幹線亀山駅整備基金に56,530千円を積み立て、令和5年度末積立残高を約19億6千万円とした。		リニア中央新幹線亀山駅整備基金として、35,554千円（ふるさと納税寄附金分を含む。）を積み立て、令和6年度末積立残高を約19億9千8百万円とした。		リニア中央新幹線亀山駅整備基金として、26,282千円（ふるさと納税寄附金分を含む。）を積み立て、令和7年度末積立残高を約20億2千4百万円とした。	
計画額	事業費	50,000千円	52,704千円	50,000千円	56,535千円	25,000千円	35,554千円	10,000千円	26,282千円
	国・県支出金		0千円		0千円				0千円
	地方債		0千円		0千円				0千円
	その他	2,200千円	4,737千円	2,200千円	9,122千円	2,300千円	13,364千円	4,320千円	20,602千円
	一般財源	47,800千円	47,967千円	47,800千円	47,413千円	22,700千円	22,190千円	5,680千円	5,680千円
決算額	事業費		52,704千円		56,535千円		35,554千円		26,282千円
	国・県支出金		0千円		0千円		0千円		0千円
	地方債		0千円		0千円		0千円		0千円
	その他		4,737千円		9,122千円		14,121千円		20,184千円
	一般財源		47,967千円		47,413千円		21,433千円		6,098千円
①期間内計画額(R4-7)		135,000千円		②期間外計画額(R8-)		- ①+②総計画額		135,000千円	

(令和7年度予算額の内訳)

前年度からの繰越額	0千円
当年度の最終予算額	26,282千円
次年度への繰越額	0千円

④ 指標 (C)	指標名	説明等	種別	単位	区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	リニア中央新幹線亀山駅整備基金積立額		成果	千円	計画値	50,000	50,000	25,000	10,000
					実績値	50,000	56,535	35,554	26,282
	リニア中央新幹線亀山駅整備基金残高	令和2年度末残高 1,802,324,765円	成果	億円	計画値	19	20	20	20
					実績値	19	19.6	20	20.2
					計画値				
					実績値				

⑤ 成果 (C)	判定	事業実施により得られた成果(誰に(何に)対してどのような効果があったか)
	A	リニア中央新幹線亀山駅整備基金への計画的な積立てにより、積立目標額である20億円の基金積立てを達成し、リニア三重県駅周辺の整備事業を展開するための財源確保につなげることができた。
	十分な成果を得た	

事業の対象	事業の目的
市	リニア市内停車駅周辺の整備を展開する際の財源が一定程度確保できている。

(再掲)

⑥ 課題 (C)	事業の達成状況等を踏まえた課題事項
	先行開業区間の事例からも大規模事業となることが想定されるリニア駅周辺整備のため、着実な財源確保を行っていく必要があるが、リニア三重県駅整備に当たっては、駅周辺整備の範囲や施設等の内容、整備主体、負担割合等が深く関わることから、概略駅位置の公表など名古屋以西の整備動向を見据えつつ、市の財政状況、建築物価の高騰等も十分考慮し、今後も基金の積立てを継続していく必要がある。

⑦ 事業の展開 (A)	方向性	
	継続(現状維持)	現状どおり事業を継続する
	改善・見直し内容	
	令和8年度で対応する(した)もの	令和9年度以降で対応するもの
	リニア中央新幹線の先行開業区間の整備動向や先行自治体の事例等も参考に、本市の財政状況も考慮しつつ、継続した基金への積み立てを行う。	駅位置や規模により駅周辺の整備費用は異なるが、先行開業区間の事例からも大規模事業となることが想定されることから、中長期的な視点のもと着実な財源確保に向け、本市の財政状況も考慮した上で、継続した積立てを行う。

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
成果判定	A	A	A	A
事業展開	継続(現状維持)	継続(現状維持)	継続(現状維持)	継続(現状維持)

【履歴】

1次評価者	政策部 政策推進課 交通政策GL 水野 洋亮
最終評価者	政策部 政策推進課長 服部 任之